令和6年度第1回岡崎市立地適正化計画策定委員会議事録

1 会議の日時 令和6年8月23日（金） 午後2時00分

2 会議の場所 岡崎市役所 西庁舎7階 701号室

3 会議に出席した委員及びオブザーバー

学識経験者 松本 幸正

学識経験者 鶴田 佳子（WEB会議システム）

学識経験者 中居 楓子（WEB会議システム）

関係団体 大高 利之

関係団体 小野 鋼二

関係団体 服部 言依

関係団体 萩原 幸二

関係団体 後藤 泰之

関係団体 玉置 文博

市の住民 岩月 美穂

市の住民 月東 佳寿美

愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長代理 小島 健

愛知県西三河建設事務所長 柚谷 正樹

国土交通省中部地方整備局建政部都市調整官 山尾 耕平（オブザーバー）

3 事務局

都市計画課

4 座長の選出

本委員会で議論する内容が昨年度からの継続案件であるため、事務局が昨年度から継続し、松本委員を座長に推薦した。全会一致で承認され松本委員が座長に就任した。

5 会議の議題

(1) 立地適正化計画の原案について

(2) 住民説明会の結果について

(3) 今後のスケジュールについて

6 立地適正化計画の原案について

座長が「議題1 立地適正化計画の原案について」の説明を求め、提出した資料に基づき次の事務局から説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑がなされた。

大高委員：

2-12 頁の農業分野に記載されている農業振興ビジョン 2030 において、本計画における考え方の箇所に「都市部において農地がもつ防災や景観形成、環境保全、交流等の多面的な機能を活用する」とあるが、「交流」とはどのようなことを指しているのか。

事務局：

市民農園等を様々な方が利用されること、また、それにより交流が生まれるという解釈で使っている。

座長：

農業振興ビジョンには、そのような記載があるという認識でよいか。

事務局：

そのとおりである。

大高委員：

6-42 頁の岡崎市が独自に行う施策に「太陽の城跡地、天下の道（中央緑道、籠田公園、桜城橋）」と記載があるが、「天下の道」は正式名称という認識でよいか。

事務局：

正式名称である。

大高委員：

次頁の「観光・交流の活性化」、「市街地環境の整備」では、「天下の道」という言葉が使われていない。「天下の道」が籠田公園から桜城橋の一体を指すのであれば、「天下の道」という言葉で示されるべきではないか。

事務局：

現行計画では、「天下の道」を「(仮称) 岡崎セントラルアベニュー」、「桜城橋」を「(仮称) 乙川人道橋」と記載していた。今回の改定においては、正式名称に記載を変更

するものである。ご指摘のとおり、6-42 頁で「天下の道」で3つの施設を示しているため、担当課にも確認しながら、他の記載箇所も表現の統一を検討する。

鶴田委員：

5-2 頁について、災害危険区域が赤字で見え消しとなっているが、調査が完了し、対象区域がなかったため、消したということによいか。

事務局：

災害危険区域については、岡崎市には該当がなくなったため、削除したものである。

鶴田委員：

盛土規制法の施行に伴い、新たに居住誘導区域からの除外を検討する予定はあるか。

事務局：

盛土規制法については、基本的に居住誘導区域は変わらないと思うが、現時点では方針が決まっていないため、国等の動向を踏まえて今後判断する。

座長：

8-3 頁の（2）の指標について、既に達成しているため目標値を見直すという説明であったが、後ろの頁を見なければ6.8%という目標値が分からない。

事務局：

現状は8-6 頁の「（3）新たな目標値の設定」に目標値を6.8%とすることを記述している。ご指摘のとおり、8-3 頁に2040 年の岡崎駅周辺の目標値を6.8%と記載すべきであるため、訂正する。

座長：

この指標の「中間値について」の記述について、「なお、岡崎駅周辺については、既に目標値を達成しているため、次頁以降で新しい目標値等について説明します」とあるが、今回の改定でこの数値自体が見直された目標値として公表されることとなるため、読み手にとっては、新しいかどうかはわからない。ここに記述するのであれば、「旧の目標値は12%であったが、2023 年時点で目標を達成した。従って目標値を新たに設定した。設定の考え方を次頁以降で示す」などとすべきと考える。

事務局：

ご指摘のとおり、表現が分かりづらいため、修正する。

鶴田委員：

この新しい目標値に関連して、目標値を小数点で示すことに違和感がある。

事務局：

他の目標値は整数となっているため、ご指摘を踏まえ、整数での表現に改める。目標値を7%とするか6%とするかについては、検討させていただきたい。

座長：

都市計画施設の改修について、当初は小中学校も位置づける予定であったが、手続き等の関係から今回はやむなく位置づけを見送ったという説明であった。今後の調整次第では小中学校も位置づける可能性があり、その際には計画を見直すということで良いか。

事務局：

そのとおりである。

中居委員：

浸水想定区域の情報について、今後気候変動等で変わる可能性があることを考慮すると、情報の時点を明記しておく必要があると思う。7-24 頁に参照資料の一覧が掲載されているが、同様の形でハザード情報の時点を掲載しておいた方が良い。

事務局：

ご指摘を踏まえ、情報の時点を明示できるものについては記載し、今後、情報更新時に対応を図りやすいようにする。

座長：

立地適正化計画は5年ごとに見直すが、今後の見直しを見据えても、いつのデータ・情報に基づいているのかを明記することは重要である。記載方法について検討いただきたい。

7 住民説明会の結果について

座長が「議題2 住民説明会の結果について」の説明を求め、提出した資料に基づき次の事務局から説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑がなされた。

座長：

質疑の中で特徴的なものはあったか。

事務局：

本宿駅周辺では、地元としては待望のまちづくりが進捗している状況にあるため、立地適正化計画における位置づけが地域拠点から準都市拠点に上がることについて、賛同の意見が多く挙げられた。また、現在進捗している民間開発事業についての質問もあったが、今回は、立地適正化計画の説明会であるため、事業に関する意見については、事業者に伝える旨の回答に留めた。

座長：

誘導区域以外への対応への意見はなかったということで良いか。

事務局：

特に意見はなかった。

8 今後のスケジュールについて

座長が「議題3 今後のスケジュールについて」の説明を求め、提出した資料に基づき次の事務局（都市計画課）から説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑がなされた。

座長：

1つは、パブリックコメントを行い、市民の方々からご意見をいただくこと。もう1つは、昨年度と同様に、場所は不確定であるものの、パネル展示という形で市民の方々への説明の場を設けるということで良いか。

事務局：

そのとおりである。パネル展示について、昨年度と同様、イオンモール岡崎で実施される防災展に岡崎市も展示をさせていただければと考えている。

座長：

忘れた頃にやってくるとも言われるように、防災は継続的な意識啓発が重要である。また、立地適正化計画についても併せて説明いただけると良いと思う。

9 その他

事務局から、次回第2回岡崎市立地適正化計画策定委員会の開催は令和7年1月を予定しており、詳しい日時については後日改めて通知することを説明した。

座長が全ての議事日程の終了を告げ、令和6年度第1回岡崎市立地適正化計画策定委員会を閉会した。